

教育目標(めざす児童生徒像)	今年度の指導の重点
(教育目標) 心豊かで 自ら考え 学び合う 勝加茂っ子の育成  (めざす児童像) ・進んで考える子 ・思いやりのある子 ・最後までがんばる子	豊かな心の育成 確かな学力の向上 健康・体力作りの推進 かかわり合う学校作り

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
<b>【学力状況調査の結果】</b> 全国(小) 国語A・B、算数A・Bの正答率は、県平均を下回っている。 国語Bの「言語についての知識・理解・技能」領域については県平均を上回った。 算数Aの「数量や図形についての知識・理解」領域は、県平均に比べると正答率は低い。 (例) 国語「標識」の読み正答率本校84%(県91.2%) 算数「46+57」の計算の理解本校92.0%(県97.1%)  県(中) 国語、数学の正答率は、県平均を下回った。 社会は県平均を少し上回り、理科は県平均とほぼ同等であった。 国語の「話す・聞く能力」の領域が県平均を上回っているが、「読む能力」「言語についての知識・理解」の領域に課題がある。	<b>【学習状況調査の結果】</b> 平日にテレビやビデオ等の視聴時間が県平均より高い。 平日にゲームを3時間以上する児童の割合が県平均よりかなり高い。 家庭での学習時間(1時間以上)の割合が県平均に比べて少ない。 図書館・図書室を活用する児童としない児童の二極化が見られる。 「読書は好きだ」という項目は県平均より高い。 あいさつ運動に取り組んでおり、あいさつは、県平均より高く、よくできている。 学習意欲、生活意欲につながる項目である「難しいことでも挑戦している」、「地域の行事に参加している」と答えた児童の割合が県平均より高い。 学校のきまりを守っている(規範意識)割合が県平均よりかなり低い。 土日の家庭学習の時間は県平均より低い。それは地域のスポーツ少年団に参加している児童が多いことと関係している。 「友達の前で自分の考えや意見を発表すること」が苦手な児童の割合が県平均よりかなり高い。 総合的な学習の項目「自分で課題を立てて情報を集め整理して調べたことを発表する学習活動」が県平均よりかなり低い。 国語の授業で「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている」項目が県平均よりかなり低い。 「学習内容の振り返り」の項目が県平均よりかなり低い。 授業の始めに「目標が示されている」項目は県平均より高い。

成果と課題	課題に対応した改善方法
国語を中心に校内研究に取り組んで4年目になるが、読書の好きな児童が多くなった。 あいさつについては、重点生活目標の一つに挙げ、また児童会でもあいさつ運動に取り組んでおり、「よくできている」と答えている児童が増えている。 国語・算数ともに活用型の問題に課題がある。(問題の問いを正確に理解できない。長文の読み取りが苦手。自分の考えを文にまとめるのが苦手。) 基礎的な知識を活用して問題を解いたり、資料や文章などを分析・検討して説明したりする力が不足している。 基礎的な事項についても、定着していない傾向にあるので、定期的な復習したり日々繰り返して学習したりしていく必要がある。 学年による違いがあるが、学校のきまりを守るなどの規範意識が低い児童が多く、学力面の課題と関係している。 総合的な学習で自分で課題を立てて情報を集め整理して調べたことを発表する学習活動をさらに取り入れていく必要がある。 授業の始めに「目標が示されている」と意識している児童の割合が多い。	「市学力向上げんぼプロジェクト研究推進事業」「魅力ある授業づくり徹底事業」に取り組み、国語を中心とした授業研究を積極的に行う。 全校共通項目として「めあてやまとめの提示や学習の振り返りを必ず行うなどの一単位時間の学習の流れの確立、自分の考えを持ち表現すること、学習規律の徹底」に取り組む(授業改善)。 朝学習の時間を活用し、毎週水曜日に計算、金曜日に漢字の反復練習に取り組む。 家庭学習の手引きを見直し、学習意欲や学習習慣の育成・予習、復習の時間の確保につなぐ。 読書活動を「読書週間の定着、本読みカード、朝の読書タイム、読み聞かせボランティアの活用」の取組を通して充実させる。 教育相談、ケース会議なども活用し一人一人の児童理解、支援を進めながら、規範意識や自己肯定感の育成を図る。 「ノーマディアにチャレンジ」週間を設け、家庭での過ごし方を家族で見直す機会を作る。(勝北中ブロックで同期間に取り組む)総合的な学習で自分で課題を立てて情報を集め整理して調べたことを発表する学習活動をさらに取り入れていく。

取組の検証方法及び検証時期	達成目標(数値目標)
学力定着状況を把握するため、各学年でたしかめテストを実施する(2月)。 児童への学習についてのアンケートを実施する(12月)。そして1学期に実施した結果と比較する。 上記の結果を受けて、改善方法の見直しを図る。	国語A・B、算数A・Bの平均正答率で県平均を上回る。 土・日の家庭学習が低学年40分・中学年50分・高学年1時間以上の児童の割合を上げる。(80%) 「国語が好き」と回答する児童の割合を県平均以上にする。 「学校のきまりを守る」と回答する児童の割合を県平均以上にする。